



MINATO TOKYO

Bulletin

みなと
ユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY / MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004 / HIROSHI NAGANO PRES.
発行所 / 港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03(3434)2233 発行人 / 永野博
Mail: info@minatounesco.jp http://minato-unesco.jp

2017年6月1日発行 第148号

目次	
P1 巻頭言	P6 キルギス共和国の家庭料理
P2 ディプロマツ・レクチャー	P7 総会 / 民間運動 70 周年日ユ協連全国大会
P2-5 シンポジウム「国際都市と感染症」	P8 事務局便り / 編集後記

SDGs（持続可能な開発目標）の 実現へむけて

会長 永野 博



世界は第二次世界大戦後 70 年を経て国際的な平和を目指した協調の動きから、分散の方向に向かうかどうかというターニングポイントにさしかかっている。英国の EU 離脱、トランプ大統領の米国第一主義のような先進国での動きばかりでなく、

トルコでの大統領への権限集中などもその動きを物語っている。

それでも現在、世界を一つの目標に向けて動かすような理念がある。それは 2015 年秋の国連サミットで採択された 2016 年から 2030 年にわたる「持続可能な開発目標」（SDGs）である。

じつは国連では 21 世紀に入り、世界が挑むべき目標として 2 つの大きな活動を実行してきた。一つは、途上国の貧困の撲滅を主たる目標とした「新世紀開発目標」（MDGs）（2001～2015 年）であり、もう一つは、そもそも日本が提唱した「持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年」（2005～2014 年）である。これら 2 つの活動実績を踏まえて策定された SDGs は 15 年間の行動目標として、「貧困をなくそう」、「働きがいも、経済成長も」、「気候変動に具体的な対策を」など 17 の目標と 169 のターゲットを示している。

SDGs と MDGs との大きな違いの一つは、途上国ばかりでなく、先進国の行動も対象とする点にある。多

くのターゲットが示されていることから、SDGs の実現においては、各国における創意工夫が求められている。

そこで重要となるのが教育である。「質の高い教育をみんなに」として、教育は SDGs の第四の目標となっているが、教育の内容は 17 の目標すべてを包含する。

わが国はユネスコとタイアップし ESD を世界でリードしてきた実績を有し、そのための拠点となる全国各地の小中高等学校からなるユネスコ・スクールも 1,000 校を超えたところである。まさに我が国では SDGs の実現を草の根レベルから考えることのできる基盤が整い、若い世代が日本の、さらには地球全体の持続可能性について思いをはせることのできる環境が整ってきた。このような草の根的活動の活発化と政府の施策があいまって、わが国から世界をリードする SDGs についての考え方やその実行方策が生み出されることを期待したい。

港ユネスコ協会でも SDGs の実現に向けて何ができるかを考えていく必要がある。



第34回 ディプロマツ・レクチャー

日時：2017年3月1日（水） 15:00～16:30

会場：国際文化会館

テーマ：From Geneva, the Humanitarian Capital – Through a Japanese Perspective –

講師 嘉治 美佐子 大使（在ジュネーブ国際機関日本政府代表部次席常駐代表）

2017年4月から、一橋大学国際・公共政策大学院法学部教授



在日各国大使と大使館員を対象に、日本事情をよりよく理解していただく機会を提供したいとの願いから、年1度開催し、講師には英語で講演していただいています。

今回の講演では「災害のリスクをどのように減らしていくか」というテーマで、ジュネーブにおける日本の役割を中心に取り上げていただきました。実際に大使がジュネーブ国際機関の中での経験から個人のご意見として詳しく講演いただきました。



—— ジュネーブは、全世界の問題を扱っている場所であり、176の政府代表部が駐在しており、また、20以上の国際機関と200以上のNGOの本部や事務局が集まっている。日本政府代表部の人員は50人ほど。

国際機関が何を進めるか。次の3つの観点、つまり、「人権・人道」「平和・安全」「開発・発展」に重点をおいている。この中の1つでも欠如しては、他の2つも達成できないことになる。

国際機関は、具体的には「持続可能な開発ゴール」に取り組んでいる。現在、世界にある課題として、貧困や紛争、気候変動などが挙げられる。

2015年は、国際連合70周年の節目の年で、多くの国際会議が開催され、仙台では「防災世界会議」が実施された。仙台は、2011年3月の東日本大震災発生から現在も復興が続いている。復興の地での開催は意義深く、周辺の被災地で多くの行事が開催されるなど、日本の取り組みは世界各国から注目されている。——

2017年は、民間ユネスコ運動発祥70周年の年でもあります。私どもの進めるユネスコ活動も、国際機関が進める3つの観点の「人権・人道」「平和・安全」「開発・発展」を基本に今後も運動が進んでいくものと期待しています。

（国際学術文化委員会副委員長 兼田徳子）



2016年度 シンポジウム 「国際都市と感染症」

日時：2017年1月27日（金） 18:30～21:00

会場：リーブラホール（みなとパーク芝浦・1階）



近年エボラ出血熱など新しい感染症が突然集団発生した。東京でのデング熱やリオ・オリンピックでのジカ熱が話題となったように、蚊が媒介する感染症の流行分布が地球規模で変わりつつある。日本の対策や、地球温暖化の影響など、身近な問題としての感染症のお話を伺った。

基調講演：岩本愛吉氏

東京大学名誉教授、日本医療研究開発機構（AMED）科学技術顧問

東京大学医科学研究所で20年以上HIV感染症を中心に感染症の研究と臨床に従事

パネリスト：中嶋建介氏

AMED 戦略推進部 上席調査役 2014年、代々木公園等でのデング熱流行の際、国内対策を担当。厚生労働省や国立感染症研究所で行政と研究の両面から感染症対策に従事

パネリスト：沢辺京子氏

国立感染症研究所 昆虫医科学部部長 蚊・マダニのみならず、ハエ、シラミ、ゴケグモ等、節足動物全般を対象に感染症対策に従事。デング熱国内発生時には都内各所で蚊の駆除に奔走

モデレータ：永野博 港ユネスコ協会会長

岩本愛吉氏 「感染症はなぜ増えるか」



人類は約 5 万年前、アフリカを出てオーストラリアやユーラシアへ移動した。出アフリカのメリットは、猛獣が少ない、感染症も少ないこと。

古代に流行した感染症には、マラリアなどの熱病、赤痢などの消化管感染症、呼吸器や皮膚の感染症などがあったと見られる。初期には少人数単位で暮らしていたが、約 1 万年前から、とりわけメソポタミアなどにおいて、農耕社会成立に伴い人類は急激に増加、天然痘、麻疹、インフルエンザ、ポリオ、ムンプスなどの感染症が広がる。エジプト王朝のラムセス 5 世のミイラを調べると、天然痘に罹った形跡がある。

多数のポックスウイルスがある中で、約 4000 年前、ラクダのポックスウイルスがヒトに感染。動物の家畜化が進行したため、動物と人の接触が増加し、動物の病原体が人に感染する機会、さらに人から人に感染する機会も増加した。また人口増加に伴い、多様な感染経路も成立した（飛沫感染、水系感染、接触感染）。

ウイルスの自然宿主としては、コウモリ（SARS、エボラ出血熱、ニパ等）、鳥（鳥インフル）、ネズミ（ラッサ熱等）があり、個体数が多い、世代交代が早いという特徴がある。また宿主自体は病気にならないか、又はなっても軽微で済む。

新興感染症 似たような性質の動物と一緒に飼うと、ウイルスが自然宿主からジャンプしやすい。市場で飼われる一羽のニワトリがウイルスに感染すると、一緒に飼われる他のトリにウイルスがジャンプする可能性がある。また多くの人口が密集して住む都会では、ウイルスは増幅されやすい。プリオン病（狂牛病）は元々、羊の病気であり、自然界には昔から存在した。草食動物の飼育に羊由来の肉骨粉を利用した結果、イギリスの若い人に患者が出た。普及型電子レンジの開発と肉の調理法の変化（例えばミンチ肉や成型ステーキ）は初期の電子レンジの性能が十分でなかったため腸管出血性大腸菌 O157 による食中毒につながった。米国ではミンチ肉を使ったハンバーガーで多数の被害が出た。食品加工技術が進歩した時は、要注意である。

感染症の拡大 人の移動手段の進歩と歩調を合わせて拡大してきた。例えばシルクロードの発達により、ペストがアジアからヨーロッパへ、大航海時代には天然痘・麻疹がヨーロッパから南北アメリカ、アフリカ南部へ。反対に梅毒はアメリカからヨーロッパへ広まった。さらに航空機の旅により、SARS は中国から世界中（とりわけ中国系コミュニティ）に拡大した。食品物流の高速化も感染症の拡大に寄与してきた。

日本で最初に発見された病原微生物もいくつかあるが、国内で新種の感染症が見つかるよりは、海外から飛び込んでくる可能性の方が高い。

中嶋建介氏 「新しい感染症の流行への対策とは」

国際都市（ロンドン、パリ、ニューヨーク、東京、香港、シンガポール）における感染症の流行について。

*19 世紀前半、インドから伝わったコレラがパリやロンドンで大流行。

コレラは日本でも 19 世紀後半に長崎から広まり、江戸で 10 万人死亡したとも言われる。

*1999 年、ニューヨークで始まったウエストナイル熱がアメリカ全土に流行、治療薬もワクチンもなく、殺虫剤を撒く等の蚊対策を行った。

*2003 年前半、香港とシンガポールで SARS が大流行、感染者 8,000 人、死者 800 人近くを出した。日本には SARS は広まらず、中国系コミュニティに日本人が入っていないからとも考えられた。

*2014 年には日本で 70 年ぶりにデング熱が流行、都心の公園で蚊の駆除作業が行われたことは私たちの記憶に新しい。



病原体、感染経路、抵抗力の 3 つの要素が揃うと感染症が発生する。

- (1) 病原体には、細菌・ウイルス・寄生虫がある。ウイルスは自分で増殖できず、人や動物の細胞で増殖する。しかも増殖する臓器や細胞、動物種はウイルス毎に決まっている。例えば肝炎ウイルスは肝臓、ノロウイルスは消化器、麻疹や風疹は人、ジステンパーは犬で増殖するというように。一方、細菌は水と栄養があれば自分で増殖出来る。
- (2) 感染経路には、咳・くしゃみ（鼻・目）、食べて（口）、接触して（粘膜・皮膚）、蚊・マダニに刺されて、等がある。感染者が間近でくしゃみをしたら、頭から顔、洋服までウイルスを浴びるので、マスクだけでは防ぎきれない。

- (3) 抵抗力の切り札となるのはワクチン。極めて有効である。ただしワクチン接種にはリスクがあるので、感染症リスクと比較して考慮する必要がある。

感染症対策 第一歩は見張ること。重症者、死亡者は見つけやすいが、「氷山の一角」という言葉にある通り、感染者の全員を見つけることは出来ない。軽い症状の人もいれば、症状の出ない人もいる。水面下も調べる方法をサーベイランスと呼ぶ。感染症法という法律があり、諸機関が調査・報告する体制が作られている。例えばインフルエンザのサーベイランスは過去 30 年以上に渡り継続実施しており、状況を把握して国民に警報を出す。季節性インフルエンザの流行は毎冬 12 月から 3 月と分かっている。ただし 2009 年の新型インフルエンザは 9 月から 12 月に大きな流行があった。

デング熱 3 年前のデング熱の流行を例にとると、蚊に刺された人がデング熱のウイルスに感染したとニュースで報道され、代々木公園は緊急閉鎖され、蚊の駆除作業が行われた。港区はホームページにデング熱対応情報を掲載し、区内 41 か所の公園で蚊の調査を実施した。蚊に刺されない対策や蚊に刺された人への注意喚起を行う等の一連の対応の後、秋になって蚊の活動が減り、流行は終息した。厚生労働省は診療ガイドラインや対応の手引きの配布、対策会議の開催、蚊のウイルス保有調査実施などで対応し、私は厚生労働省の課長として大変忙しい思いをした。実は代々木公園で国内感染が発生する前年、ドイツ人旅行者が日本を旅行中にデング熱に感染したと EU から連絡を受けた。そこで国内発生を想定し、メディア発表も行って全国に警戒通知を発令し、対応ガイドラインを策定していた。

感染症の危機管理対応

- (1) 事前の感染症対策は重要であるが、どれだけやっても万全とは言えない。
- (2) いったん感染症が発生すると大騒ぎになって関心を集めるので、普段はできない対策の推進のためにも、直後の対応が極めて重要である。
- (3) 発生時は臨機応変に対応する。
- (4) 国民の知る権利、国の知らせる責務を大切に。記者会見（国民への説明）では事実関係、国の対策、国民へのお願いを伝えなければならない。その間、患者の人権にも配慮する必要がある。

沢辺京子氏 「蚊やマダニが媒介する感染症の流行拡大と日本における感染リスク」



蚊が媒介する感染症 蚊は昆虫だが、ダニは昆虫ではない。蚊とダニは節足動物と呼ばれる。ハマダラカが媒介するマラリアは世界三大感染症の一つ（あとの二つは HIV と結核）。患者数は日本では減りつつあるが、世界では 91 か国、429,000 人が死亡（2015 年データ）。コガタアカイエカによる日本脳炎は世界的には年間 68,000 人が感染、その 30%以上が死亡している。日本・韓国・台湾ではワクチンの定期接種等により流行はほぼ阻止されている。ネッタイシマカやヒトスジシマカによるデング熱は年間約 4 億人が発症する。日本での患者数は増えつつある。ジカウイルス感染症について日本で初めて輸入症例が報告されたのは 2013 年、それ以降患者数は増加している。ブラジルで流行が始まったのは 2015 年だった。症状は微熱、皮疹、結膜の充血。感染しても 8 割の人は軽く済むか症状が出ないと言われる。ジカルス感染症は小頭症およびギラン・バレー症候群との関連性が指摘され、ブラジルにおける対策は主として、成虫駆除、幼虫対策、生物学的防除である。

マダニが媒介する感染症（国内） 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本紅斑熱、ライム病、つつが虫病などがある。SFTS は、西日本を中心に 21 府県から 228 名の患者が報告されており、約 3 割が亡くなるという致死率の高い感染症である。患者発生は 5 月が多い。発生地でダニの調査をするには、旗ずり法を使うことが多い。フランネルの布を地面に這わせてダニを捕獲し、種類別の個数を数える。

国内感染リスク ヒトスジシマカは年平均気温 11℃ 以上の地域に定着し、気温の上昇に伴い、その分布域を拡大している。また日本にはシマカの仲間がたくさんいるうえ、ネッタイシマカが飛行機に乗って海外からやって来ている。2012 年以降、国際線の飛行機や国際空港の敷地内で毎年見つかる。外国人観光客も増加、病原体の増殖に適した夏の日が多くなり、蚊の発生数の増加も予想される等の理由から、蚊が媒介する感染症の国内流行リスクは高まる一方である。

蚊・マダニの被害から身を守る方法 ヒトスジシマカの幼虫は小さな水域（植木鉢の底、古タイヤ、溝など）に発生するので、水たまりを作らないように普段から気をつける。また蚊に刺されないよう、防御に留意する。もしマダニに刺されたら、指でつぶさず、ダニ口器をピンセットなどで摘んで慎重に取り除く。ワセリンやハンドクリームなどを厚く塗るのも効果的であるが、無理はしない。新しい試みとして、昨年、蚊と病気に関する授業を小学校で行なった。5 年生の子供たちの反応がとても良かったし、子供を通じて保護者にも意識を持ってもらうことで地域の取り組みにプラスとなることを期待している。

会場の参加者との質疑応答



問：(1) 蚊は血液を吸わなければ繁殖出来ないのか？

(2) シベリアの森に大量の蚊がいるのを見た。寒い地で冬をどう過ごすのか？

答：(1) 雌の蚊は卵を作るために血を吸う。吸わなければ子孫を残すことが出来ない種類がほとんどである。

(2) シベリアの蚊のことは分からないが、北国でも親の姿で越冬するタイプ（イエカやハマダラカ）や、卵で冬を越すタイプ（ヤブカ）がいる。

問：昔台湾に住んでいた時、山の中でマラリアに罹ったが、キニーネで助かった。石垣島で聞いた話では、戦争マラリアと呼ばれるもので多くの方が亡くなったという。温暖化で蚊の北上はどこまで進んでいるのか？また治療薬はキニーネなのか？

答：ハマダラカは水の綺麗な所が好きで、また比較的涼しい場所に生息する。温暖化によって生息地が拡大しマラリアの感染地が拡大することは恐らくないと思う。キニーネの時代からはかなり時間が経って、新しい薬が出て来ている。よほど重症の場合はキニーネを使う。



問：患者がマスクをするのは効果的だが、飛沫を受ける側にはあまり意味がないと聞いてショックを受けた。家族に抵抗力の弱い者がいるので心配。どうすれば良い？

答：患者がマスクをするのは必要なマナーと思う。飛沫を浴びる側としては、あまり心配し過ぎるのもよくないが、帰宅したら手洗い・うがいをするなどが大事。普通のマスクでも防御の役に立つと思うが、100%ではないと考えてほしい。狭い部屋で患者の世話をするなら、医療用のマスク着用が必要だが、特殊なマスクなので、普通の活動をする人間は1時間ももたないと思う。

問：インフルエンザの予防接種を毎年受けているが、ワクチンによってインフルエンザが発症することはあるのか。

答：インフルエンザのワクチンではウイルスは死んでいるので心配ない。麻疹やおたふく風邪の場合は生ワクチンなので効果は強いが、問題が起こる場合もある。

問：欧米ではマスクをする習慣がないようだが、これに代わる対策が何かあるのだろうか？

答：何もしてない。マスクは病人がするものだという意識なので日本に来て驚くようだ。マスクはした方がよい。

問：狂牛病はもともと羊の病原体から起こった新興感染症だという話を聞いたが、北海道では羊の肉を食べる。将来感染症が発生する可能性があるか？



答：人間は何百年も昔から羊を食べており、羊の脳がスポンジ状になる病気も知られている。しかし人間には感染していない。羊をたくさん食べる地域で狂牛病が増えたという話も聞かない。狂牛病の場合、ウイルスは羊から牛に移り、人間に入った。可能性がゼロではないが、羊から人間に直接来ることは心配しなくてよいだろう。

問：蚊やダニは世界中にいる。それらすべてが同じような病原菌を媒介する可能性はあるか？

答：世界中には約 3,500 種類の蚊がいる。日本にはそのうち 110 種ほどが生息するが、実際に病原菌を運ぶタイプは僅かである。熱帯熱マラリアを媒介するハマダラカは熱帯性、デング熱を媒介するネッタイシマカは熱帯性だが、日本のヒトスジシマカは温帯性と、地域に特化している。また東京のヒトスジシマカ、大阪のヒトスジシマカ、九州のヒトスジシマカなど地域によって、デング熱を運ぶ程度（蚊の中でウイルスが増える程度）が異なることが分かってきた。

問：それでは、世界のどこかで流行した病気が日本で広まることは割合少ないのだろうか？

答：全く同じ種類でなくても、似たような種類の蚊が日本にいれば、熱帯から来たウイルスを媒介する可能性はある。海外から病原体が来る場合、人間が運び屋になることが多い。アフリカでナイトサファリに行くとか、ワニやライオンの肉を食べるとか、日本人が個人で病気になるリスクは高まっている。ただ、日本国内で感染が広まるかどうかは別問題である。

問：海外からの帰り、空港で税関・入管を通るとき、皆すすすすと通っていく。「体調が悪い人は申し出て下さい。」と呼び掛けているが、あれはどのくらい効果があるのか？

答：日本の場合、カメラで皮膚の温度などを見て、いつでも相談を受けられる体制を整えている。100%の防御は無理だが、いろんな対策の一つとして活用している。

(副会長 宮下ゆかり)

キルギス共和国 の 家庭料理

日時：2017年2月26日(日) 12:00～15:30

会場：港区立男女平等参画センター「リーブラ」料理室

講師 ティニスタノワ・ジャニル さん

キルギス共和国

ユーラシア大陸のほぼ中央、中央アジアの山岳の国。旧ソビエト連邦の共和制国家。面積は日本の半分ほどで、人口は約600万人。首都はビシュケク。

古より遊牧の民が行き交うシルクロードの要であり、現在も80もの民族が共存し、多様な文化を織りなしている。



キルギス料理

遊牧文化の国・キルギスの料理に肉が欠かせない。ロシア料理の影響を受けながらも、日々の食事は中国西域やモンゴルから伝わった伝統的な遊牧民族の羊肉料理などを食べるなど、周辺諸国の料理の影響も受けている。イスラム教徒が多いため、あまり豚肉は食べない。



講師紹介

ロシアトムスク国立大学、キルギス科学アカデミー大学院を卒業。2004年JICA研修生、2005年度外務省招聘研修生時、宇都宮市のいっくら国際文化交流会で日本文化・日本事情他を研修。2012年、岩手大学工学研究科で、デザイン・メディア学、情報システム専攻、修士・博士取得。2015～2017年3月、石川島播磨株式会社 IHI グローバルビジネス統括部、マーケティング部に出向。ロシア、中央アジアとの新事業開発に取り組む面白さ、醍醐味を実感しながら、日本と母国の関係緊密化に尽力されている。

【当日のメニュー】

1) ショルボ (スープ)

鍋に水、ラム、鶏ガラ（骨付き羊肉の代用）を入れ30分煮込む。その後、アクを取りのぞき、人参、玉葱、じゃが芋を入れ約1時間煮込こんだ後、塩で味付けする。デイル、小葱を刻み散らす。



2) マンティ (マントウ)

牛ひき肉、ニラ、小さめの玉葱のみじん切りをよく混ぜ、具を作る。

まず、生地（小麦粉＋水）をこねる。ギョウザの皮ぐらいの厚さに伸ばし、正方形に切り、具を入れ包み成型する。

湯むきトマトを小さく切り刻み、にんにく醤油をたらしたソースをつけて食べる。



3) ボルソク (揚げパン) デザート

小麦粉500g、牛乳250g、イースト菌、塩を入れて混ぜ練り、薄く伸ばし、ダイヤ形に切り、揚げる。フォークで穴をあけて、サラダ油で揚げる。蜂蜜をつけて食べる。



若く澁澁としたジャニルさんに母国の家庭料理を紹介していただきました。特に、マンティは日頃私たちがよく作る餃子に似たもので、生地の成型が見るからに可愛らしく、心温まる一品でした。皆、懸命に楽しく実習しました。ボルソクにつける蜂蜜は、ジャニルさんの親戚の養蜂場で作られたものだとのこと、とても美味しかったです。また、ロシアの養命酒「バルサム」は紅茶の香りを引き立てました。

(世界の料理委員会 足利扶美子)

2017年度総会 無事終了

日時：2017年4月26日（水）18:30～20:00
場所：港区立生涯学習センター3階 305号室

菊地賢介副会長の司会で始まりました。永野博会長から開会に当たっての挨拶がありました。

「今年は民間ユネスコ運動 70 周年の区切りの年にあたりますが、港ユネスコ協会は丁度この半分の期間、活発な活動をしてきました。昨年度会長に就任して以来、財政状況の改善に注力し、持続可能な組織とするよう努力を続けています。新年度から新しい事業を企画するなど、若い層の会員獲得を更に図っていきたいと思います。

世界の政治状況が不安定になるなか、ユネスコ精神はますます大事なものとなっています。草の根運動として平和に向けた活動を推進することが、地域ユネスコ協会の重要な役割となっており、これが活力ある社会の創造にも繋がります。武井区長様はじめ、各方面の方からのこれまでのご支援に厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。そして、会員の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。」

武井雅昭港区長が開会時からご出席下さり、ご挨拶をいただきました。

「港ユネスコ協会には長年にわたり国際交流を中心として、港区で活動をしていただいております、感謝しています。港区の人口は約25万人で、その8%が外国籍の方々です。このような港区の国際的環境が、区民の生活の中に根付くように、港区として国際力強化に向けて新たな分野でも努力をしているところです。この観点からも港ユネスコ協会の活動は大きな力となっています。協会がこれまでの活動で蓄積されてきた国際的知見を港区の活動にも取り入れさせていただきたいと考えております。港ユネスコ協会の引き続きの発展を祈念します。」との、あたたかいご挨拶を頂きました。



その後永野会長が議長に選出されて議事が進められ、2016年度の事業報告、決算報告、監査報告、また2017年度の事業計画、予算が承認されました。

役員人事では、松本洋副会長が相談役に、平方一代常任理事が副会長に、渡部俊子理事が常任理事に復帰され、笠原正子氏が新たに常任理事に就任されるという異動案が承認されました。



最後に、異動のあった役員の方々からご挨拶を頂き閉会しました。なお、2017年度は、副会長4名、常任理事7名となりました。

松本相談役、長年のご尽力にお礼申し上げ、引き続きご協力をお願い申し上げます。



港区教育委員会事務局・生涯学習推進課から、新任の増田玲子課長、同じく新任の庄司健二係長、2015年度から引き続き当協会の窓口を務めて頂く寺崎周子さんが出席されました。(事務局長 須田康司)



民間ユネスコ運動 70 周年記念 日本ユネスコ運動全国大会 in 仙台

2017年7月15日（土）～16日（日） 発祥の地、仙台で開催されます。

(日ユ協連の案内パンフレットから)

戦後間もない空襲廃墟と化した仙台で一人の終戦処理行政官が立ち上がった。上田康一氏（1946年当時、外務省東北終戦連絡事務局連絡官）である。1946年11月パリで開催された第1回UNESCO総会のUNESCO憲章前文を新聞で読んで深い感銘を受け、日本に民間運動を展開することが必要であると考え、まず仙台の熱意ある有識者結集に動き出し、1947年「日本ユネスコ協力会」を設立した。翌年、京都、東京へと呼びかけ、「日本ユネスコ協力会連盟」の結成にこぎつけた。1948年11月仙台で第1回総会と民間ユネスコ運動全国大会が同日に開催された。爾来70年、民間ユネスコ運動は各地で活発な活動を展開してきた。云々とあります。

上田康一氏は、港ユネスコ協会が 36 年前の 1981 年の創立時の副会長（3 名）のお一人でした。因みに、創立時の会長は建築家・丹下健三東大名誉教授、他 2 人の副会長は慶応義塾大学平 良教授と、CWAJ 会長・Ms. Ramstad でした。意義の深い仙台での全国大会ですので、ご参加下さいますようご案内いたします。（相談役 高井光子）

事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員： 浅野静子さん、石井義明さん、石田光代さん、小林昌子さん、中居洋子さん、林 陽子さん、安永和生さん

【今後の事業予定】（詳細は別途、チラシやホームページでご案内します）

☆4月12日～6月21日 初級英会話講座、毎水曜日、18:30～20:30、春期コース全10回

7月5日～9月20日 初級英会話講座、毎水曜日、18:30～20:30、夏期コース全10回

講師：マーク・マードック先生 会場：港区立麻布区民センター

☆4月12日～6月21日 初中級英語講座、毎水曜日、18:30～20:30、春期コース全10回

7月5日～9月20日 初中級英語講座、毎水曜日、18:30～20:30、夏期コース全10回

講師：笠原三郎先生 会場：港区立生涯学習センター3階 事務局

☆6月18日（日）12:00～15:30 世界の味文化紹介「ミャンマーの家庭料理」

会場：港区立男女平等参画センター・リーブラ料理室（みなとパーク芝浦）

参加費：1500円 一般：2000円

☆6月23日（金）18:00～ 「座禅の会」 会場：青松寺（港区愛宕）

☆6月28日（水）18:30～21:00 MUA 新入会員を囲む会 会場：港区立生涯学習センター304室

☆7月1日（土）13:30～16:00 ゆかた着付け体験教室 会場：港区立生涯学習センター203室 参加費 500円

【ご協力をお願い】 常時受け付け中です。事務局までお願いいたします。

☆日コ協連・東日本大震災子ども支援募金

☆ミンダナオ子ども図書館へ 寄贈品 衣料品（除毛織物）新品・中古品（洗濯済）寄付金（送料分）

【事務局人事異動】 3月末で葛西章江さんが退職され、4月から高橋郁子さんが任務に就かれています。

葛西さん、長い間お世話様になり有難うございました。高橋さん、よろしくお願いいたします。

港ユネスコ協会事務局（火～金 10:30～17:00）

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3 TEL 03(3434)2300 TEL・FAX 03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp

ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>

編集後記

◆まだ5月だというのに、東京の気温は30℃を超える勢い。近年「爽やかな5月」を楽しむ時期が少なくなっているように思う。そういえば、GW中は沖縄よりも北海道の方が暑かった日があった。また、亜熱帯のような夏がやってくるのかと思うと、ちょっと憂鬱な気分になる。今から熱中症に気を付けよう！（小林真弓）

◆若者の「本離れ」に関する新聞記事を目にすることがある。あまり読書をしない者の中には「読書は趣味と同じようなもので本好きな人が読めば良い」と言った意見も紹介されている。しかし、読書によって広がる世界は自分一人の努力だけでは得られないものであり、「うまく生きる」ことには直接役に立つことは少ないかも知れないが、「よく生きる」ことには必ず役に立つ欠かせないものではないだろうか。（須田康司）

◆5月の連休後、シニア仲間の団体で奈良へ短い旅行をしてきました。行く先々のお寺で、ガイドさんに引率された若さ一杯の学生達の行列に出くわし、かつて修学旅行をした頃を思い出しました。好天に恵まれたうえ、お寺や仏像に詳しいかたが同行して下さり、随時、的確な説明を得られたので、大変有意義な Re-discover Japan となりました。（棚橋征一）

◆「港区国際防災ボランティア災害時通訳・翻訳対応訓練」に参加し、災害発生時から、避難、生活再建までのシミュレーションなどを体験した。今回「ボランティア登録証明書」を受領したのは180名とのこと、区民の関心の高さが伺える。この証明書が役立つような事態が起こらないようにと切に願う。ともあれ、自分自身、正しい知識を身につけ、備蓄して、身を守る力をつけることから始めよう。Let's get prepared!（高井光子）